

渋谷区立松濤美術館
開館5周年記念特別展
堀 内 正 和

会 期

昭和61年 9 月30日(火)

└

11月24日(月)

(休館日は裏面をご覧ください)

会 場

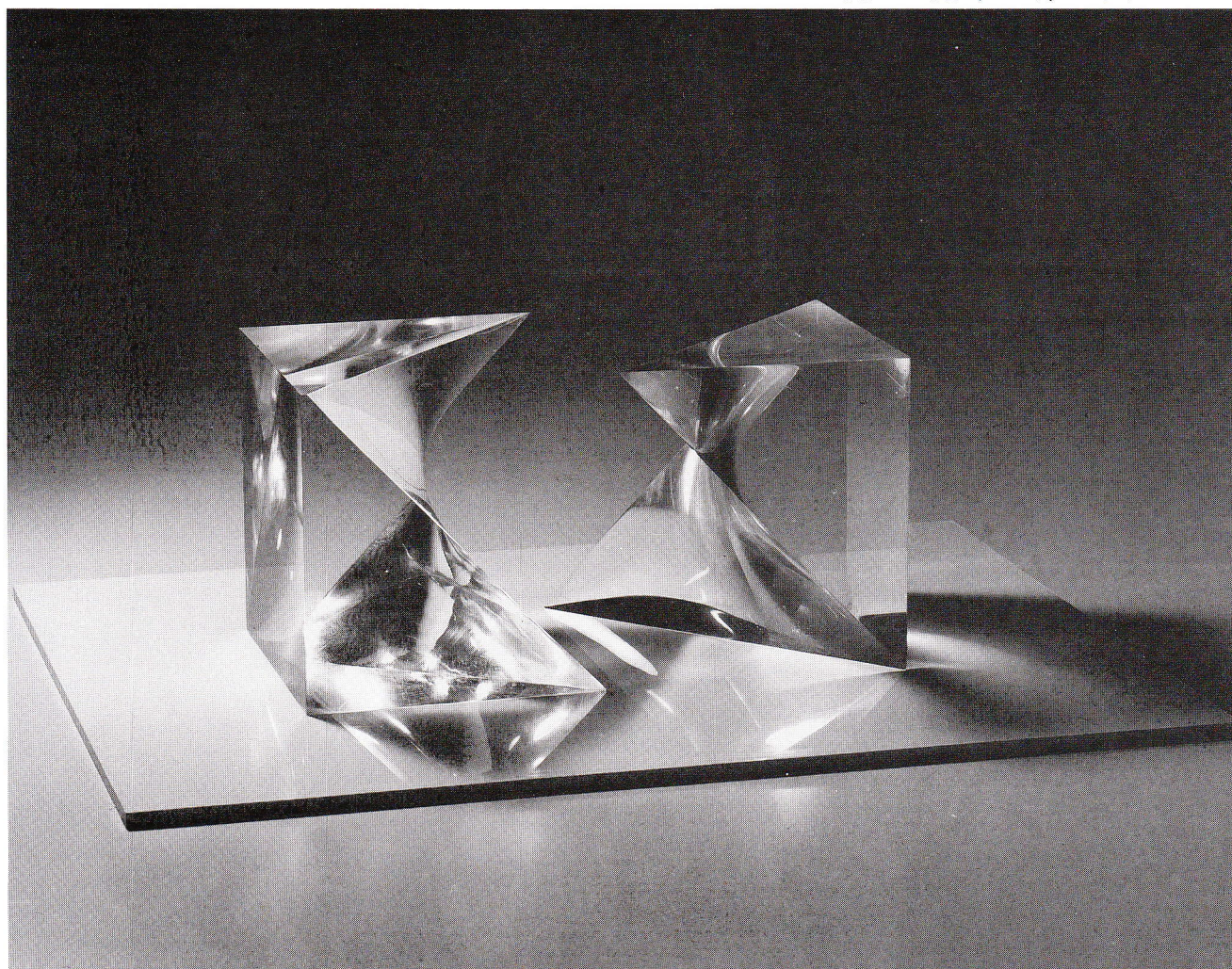
第一会場

(地下1階・主陳列室)

第二会場

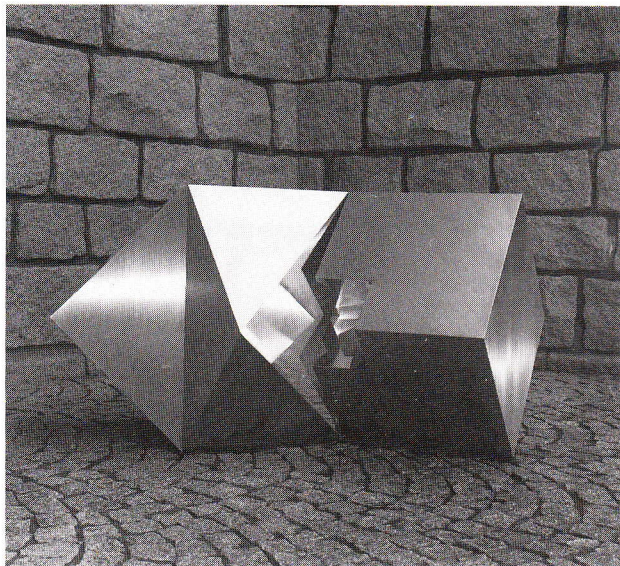
(2階、サロンミューゼ、特別陳列室)

▼立方体の二等分(1969年) アクリル



渋谷区立松濤美術館

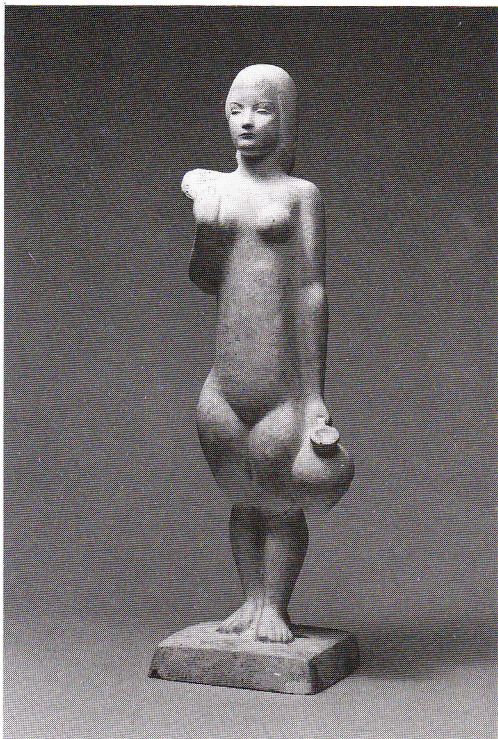
三つの立方体C (1978年) ステンレススティール



堀内正和氏の彫刻

渋谷区立松濤美術館は、本年10月に開館5周年を迎えますが、開館5周年を記念して、渋谷区在住の彫刻家堀内正和氏の彫刻展を開催します。

壺 (1949年) 石膏

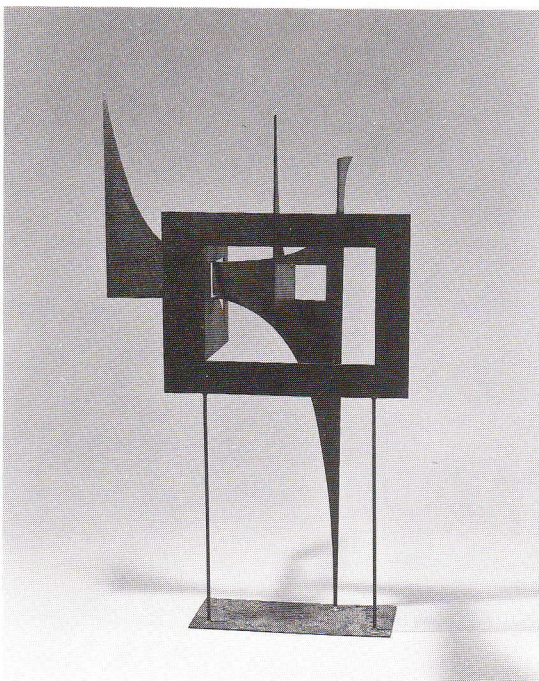


堀内正和氏は、はやくから抽象彫刻を製作し、第9回アントワープ国際彫刻ビエンナーレ展出品、第1回現代国際彫刻展で大賞を受賞するなど国内外に評価を高め、明快な幾何学的形態の中にユーモア感覚をもちこんだ独自の芸術により、現代日本彫刻界に確固とした地歩を築いています。また、京都市立美術専門学校（現京都市立芸術大学）の教授をつとめ美術教育にもたずさわりました。

東京高等工芸学校中退後、二科展に、半具象彫刻などを出品し続けていた堀内正和氏は、戦後、彫刻についての思索を深め、山梨の山村で、形の根源は立方体と球であるという認識に到達しました。それ以後氏は自然界の表面的な形や、美術界の流行にわずらわされることなく、立方体と球の組み合わせによるヴァリエーションや、基本形態構成の様々な可能性を一つ一つ追求してゆきました。

最初は水平と垂直線の組み合わせから出発して、「五つの正方形と五つの長方形」(1955)などの丸と四角の組み合わせシリーズ、次いで、扇形シリーズ、「とぶ円筒」(1960)などの円筒シリーズ、「表裏相入円錐」(1961)などの円錐シリーズ、「片側曲面直角六辺形」(1964)などのメビウスの帯シリーズ彫刻と順次展開してゆきました。1960年代中頃から、氏の関心は「のどちんことはなのあな」(1965)などの幾何学的形態を人体になぞらえた作品や、「箱は空にか

面と線による構成 (1955年) 鉄



Androgynous



えってゆく」(1966)のような幾何学的形態に人体の一部を組み合わせた作品に集約してゆきます。この時期の作品には作者の無邪気なあそび精神が横溢しています。

1960年代の後半からは「円等の二等分」(1969)「立方体の二等分」(1969)、「円筒をななめにとおりぬけるもうひとつの円筒」(1970)などの切断・貫入彫刻が制作され、ついで、1970年代中頃から出現する「三つの立方体」シリーズ、「三本の直方体」シリーズなどの連結立方体シリーズの連作期に移行します。

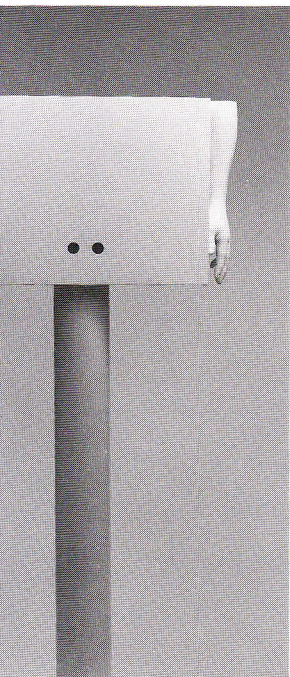
1980年代から氏の彫刻は、日本各地の野外や、公共施設に設置されることが多くなります。

琵琶湖大橋彫刻プラザや、岡山市立中央図書館など、そして渋谷区スポーツセンターに「体積が等しい五つの直方体」(1985)などが設置されますが、単純な形態をリズムカルにズラして組み合わせた作品からは形態の絶妙なバランスが表現され氏の芸術の深まりが感じられます。

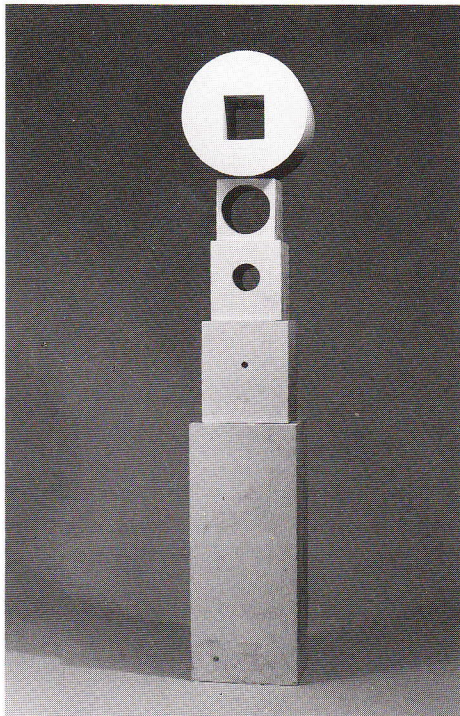
本展は堀内正和氏の代表的彫刻51点に紙模型、版画、デッサンなど18点を加えて陳列します。

- 1911年 京都市に生まれる。
- 1929年 東京高等工芸学校彫刻部を中退、番衆技塾で藤川勇造に学ぶ。
- 1936年 二科展にはじめて抽象彫刻を出品。
- 1947年 二科会彫刻部会員となり、第50回二科展まで出品。
- 1950年 京都市立美術専門学校（現京都市立芸術大学）教授となる（1974年まで）
- 1954年 鉄熔接彫刻をはじめる。
- 1957年 第4回サンパウロ・ビエンナーレ展出品。
- 1958年 第3回現代日本美術展（東京都美術館）出品。以後第11回まで毎年出品。
- 1963年 第6回高村光太郎賞受賞。堀内正和彫刻展（神奈川県立近代美術館）
- 1965年 第1回現代日本彫刻展（宇部）出品、第4回まで出品。
- 1966年 第3回国際現代彫刻展（ロダム美術館）出品。
- 1967年 個展（東京、秋山画廊。京都、ギャラリー16）。回顧展（京都市美術館）。第9回アントワープ彫刻ビエンナーレ展、グッゲンハイム国際美術展出品。
- 1968年 第1回神戸須磨離宮公園現代彫刻展に出品し、第3回展まで出品。
- 1969年 第1回現代国際彫刻展（箱根・彫刻の森美術館）出品。「立方体の二等分」で大賞受賞。
- 1971年 第2回インド・トリエンナーレ展出品。
- 1973年 戦後日本美術の展開—抽象表現の多様化展（東京国立近代美術館）出品。
- 1975年 第13回アントワープ国際彫刻ビエンナーレ展出品。
- 1976年 現代彫刻の5人展（兵庫県立近代美術館）出品。
- 1977年 堀内正和展（現代彫刻センター）。
- 1978年 堀内正和展（神奈川県民ホール・ギャラリー）。
- 1980年 個展（東京画廊、名古屋、桜画廊）。山口長男・堀内正和展（東京国立近代美術館）。
- 1981年 リオ・デ・ジャネイロ近代美術館寄贈作品展出品。第15回現代日本美術展（毎日新聞）。現代美術の動向1展（東京都美術館）出品。特別陳列渋谷区在住作家の作品（渋谷区立松濤美術館）出品、以後毎年出品する。
- 1982年 個展（ときわ画廊）。
- 1985年 渋谷区スポーツセンターに「体積が等しい五つの直方体」を設置。
- 1986年 個展（現代彫刻センター）

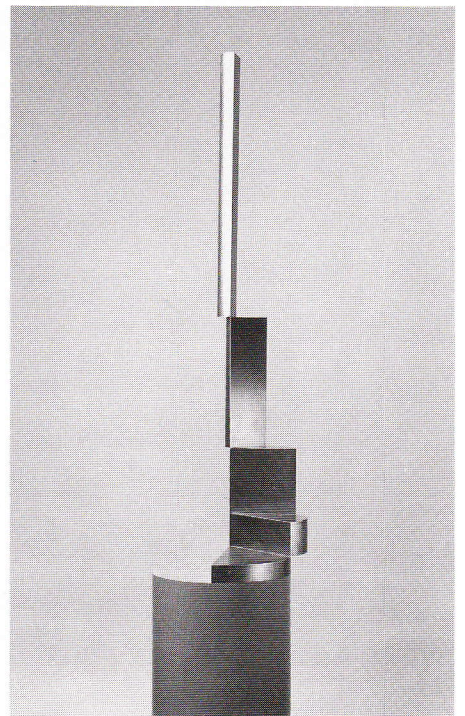
s (1969年) 鉄、石膏、鏡



Cubes et tubes (1966—67年) 石膏



体積が等しい五つの半円柱(1986年)ステンレススティール



■講演会

10月18日(土) 午後2:00～
「現代彫刻の流れと堀内正和」

和光大学教授 針生 一郎氏

11月15日(土) 午後2:00～
「堀内正和の彫刻について」

横浜市立美術館
準備室 参与 柳生不二雄氏

■美術相談

美術作家を招き、皆さんの作品を見ながら、技術指導や相談を行います。美術史・美術図書の相談にも応じます。(油絵指導をご希望の方は絵の具、筆などをお持ちください。)

★相談日時・相談員

10月19日(日) 午後1:00～4:00

洋画家 西嶋 俊親氏／日本画家 戸田 康一氏

11月16日(日) 午後1:00～4:00

洋画家 宮田 翁輔氏／日本画家 戸田 康一氏

★申込方法 事前に電話で相談内容をお知らせください。

★料 金 入館料のみ

■美術映画会

★10月5日(日) 午後2:00～3:00

「北野天神縁起絵巻」

「信貴山縁起絵巻」

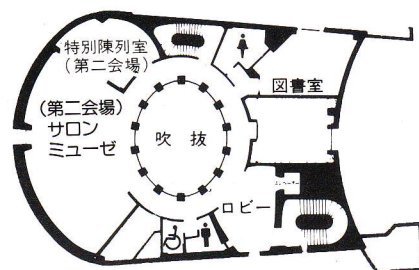
★11月2日(日) 午後2:00～3:00

「十一面観音の道」

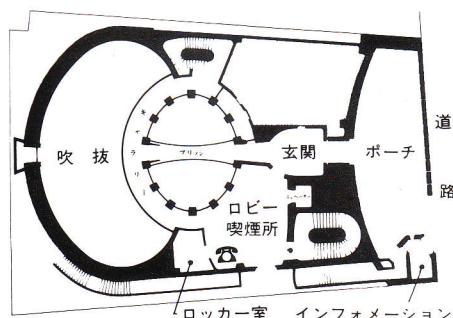
「宗達・空間の魔術師」

松濤美術館・平面図

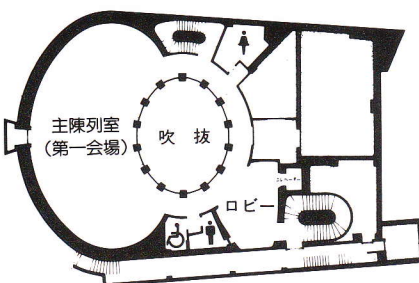
2階



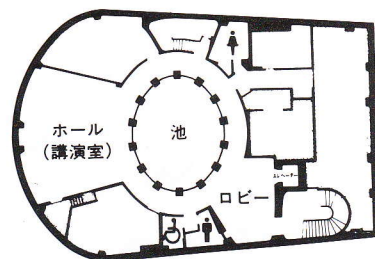
1階



地下1階



地下2階



- 会 期 昭和61年9月30日(火)～11月24日(月)
- 休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日 祝日の翌日
10月/6日(月)・12日(日)・13日(月)・20日(月)・27日(月)
11月/4日(火)・5日(水)・9日(日)・17日(月)
- 開館時間 午前9時～午後5時 (ただし入館は4時30分)
- 入 館 料

	個 人	団体(20人以上)
一 般	200円	160円
小中学生	100円	80円

案 内 図

